大津市立下阪本小学校

令和6年度　我が校の学ぶ力向上策

【市町　目標】
〇新しい価値と可能性を追求する教育を実践し、多様性を尊重し自立できる子どもを育てる。

【学校　目標】
〇主体的に学び続け、「できる」「わかる」を実感できる子どもの育成
～考えを伝え合う力を伸ばすための授業の工夫～

【現状と課題】
〇視点１　自立した考え、判断、行動の力や経験が不足を補う必要がある。
〇視点２　基礎学力を向上させる必要がある。
〇視点３　協力する力を伸ばし、経験を積む必要がある。

取組事項および評価指標

※評価：【達成状況　90%以上→A　70%以上90%未満→B　70%未満→C　　時期→１回目：９月　２回目：２月】
※達成状況の割合(%)は、目標数値に対しての達成状況の割合です。

【視点１】子どもたちが主体の授業づくり

取組事項	評価指標	1回目評価	2回目評価
①学年ごとに、「話す」「聞く」「考える」についての実態把握から課題を明確化し、その課題に対する授業改善を行う。	①学校評価（教職員）の「指導改善」の「学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善を行った」の評価2.2（R5 2.1)以上		
	②学校評価（教職員）「協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善を行った」の評価2.2（R5 2.1）以上		

【視点２】学びを支え合う集団づくり

取組事項	評価指標	1回目評価	2回目評価
①思いやりを育む教育を推進し、お互いを認め合い、安心して自分の思いを表現できる学級経営に努める。	①学校評価（教職員）「道徳教育の充実」評価2.4（R5 2.3）以上		
	②学校評価（教職員）「主体的・対話的で深い学び」「支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践に努めた」評価2.3（R5 2.2）以上		

【視点３】協働して取り組む学校づくり

取組事項	評価指標	1回目評価	2回目評価
①OJT推進リーダーを中心に、研修や相談の場を設け、経験年数の長い教員の指導技術を若手教員へ継承する等、指導力向上を目指す。	①時期に応じた内容で、年間30時間以上のOJT研修会を開催する。		
	②学校評価（教職員）「指導改善」の「教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上に努めた」評価　2.2(R5 2.1）以上		

◇「学ぶ力向上策」の実効性を高めるために、いつ、どのように職員全体で共通理解を図り、共通実践し、検証・改善していくのか、時期や手立て等を記載してください。

1.学年の「学習」に対する状況を把握。「考えを伝え合う力」に対する実態を学年間で出し合い、現状分析を行い、課題を明確化する。
2.実態に対する「授業の工夫」の内容を練り合う。
3.各学年と特別支援学級での取組を研究授業として年間１回公開する。
4.研究会で授業者、授業学年にフィードバックを実施する。
5.さらに実態に対して、授業改善を継続する。
6.教材研究、研究会での指導助言を教科主任が行う。

今年度の取組の成果と課題